

「よりよい社会を考える」ために有効な高等学校「倫理」対話型授業開発

下前 弘司

対話型授業は、「よりよい社会を考える」授業に欠かせない要素である。望ましい社会像を考え生徒どうして検討するために有効な授業形態である。そこで、筆者が高等学校公民科倫理の授業において実践してきた対話型授業を、「フリートーク型」「レポート輪読・意見交換型」「課題解決・提言型」の3つに類型化しつつ紹介する。そして、それぞれの特徴を分析することを通して対話型授業に必要な要素を明らかにし、対話型授業を成功させるためのポイントを考える。

1. 研究の背景と目的

高等学校倫理の目標は、「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」(文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版, 2010年, p.26より抜粋)とされている。決して、知識を整理して教授し、倫理思想に関する教養を身につけさせるというものではない。それはあくまでも目的達成のための手段であって、目的そのものではない。

知識の教授によって、「青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる」ことはできる。しかし、「人格の形成に努める実践的意欲を高め」ることは、卓越した教師の話し術が伴わない限り難しい。まして、「他者と共に生きる主体としての自己の確立」を進めることはなおさらである。ふつうの教師が知識教授の授業をし、それでも生徒が主体的に学んだというのであれば、それは授業以前に生徒の主体性が高かったのであり、授業の効果とは言い難い。また、「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」ためには、主体性と他者との協力が必要であることが学習指導要領解説において指摘されており(前掲書 p.27を参照)、教授形式の授業だけでは科目の目標を達成しがたいことは明かである。

そこで、実践的意欲を高めること、主体的な学び、他者との協力という3点に注目し、どんな力量の教師でも実践的意欲を高めさせ、主体性を高めさせるための授業づくりについて、本稿で紹介する。

2. 高等学校倫理における対話型授業の類型と特徴

実践的意欲を高めること、主体的な学び、そして特に

他者との協力という点に注目すれば、授業に対話を採り入れざるを得ない。では、何を意識した対話にするべきなのか。自分の意見を表明して他者に受け入れてもらえる喜び、自分をそして世の中の本質に迫る楽しさ、他者と協力して課題解決を進めるおもしろさ、そういった要素を加味した対話型授業が必要だと考える。これらの要素をふまえて、本稿では3つの類型を示し、具体的な授業プラントとともにそれぞれの特徴を紹介する。

＜パターン1：フリートーク型＞

何かしらのテーマを決めて、それにまつわる倫理・哲学的課題を見出し、自由に討論するというのがフリートーク型である。必ずしも先哲の思想にとらわれる必要はない。倫理・哲学的思考にチャレンジする、自由に価値観を交わせる熱い対話が特徴である。実のある他者理解につながり、相互理解に基づくクラスづくり・学年づくりにもつながる取り組みでもある。

【実践例1 自由の定義を考え、ダイヤモンドランキングを通じて互いの価値観をぶつけあう。】

①授業の主な目的

- 自分と周囲の人との考え方の違いや多様性を認識し、様々な考え方に対して受容ができるようになる。
- 自分が想定する自由の定義など、根拠を持って自分の考えを主張できるようになる。
- 具体的な場面を想定しつつ、自分の人生を想定しながら議論を進められるようになる。
- 答えが1つに決まらないからこそ議論が重要なのだということに気づかせる。
- 様々な「自由」があり、その中には一方の「自由」を強く主張し過ぎることで、別の「自由」を侵害することがあるという点をふまえ、何を優先すべきかを議論させる。

②授業の展開(2時間展開ならばⅡ～Ⅳの時間を延長し、「Ⅴ. 振り返り」を追加する)

I. 資料配付, 本時のテーマ (問い) 説明… 5分

ルール説明を行う。一般論やどんな人にも当てはまる結論を求めるのではなく、自分だったらどう考えるかを徹底させるように指示する。

II. 個人の「ダイヤモンドランキング」を作成し, 理由を考えて記述させる… 10分

自由に関する具体的な例を9つ挙げ、重要だと思う順に上から並べていく。最も重要と思うものを1番上の位置に、次に重要と思うもの2個を二段目に、その次に重要な3個を三段目に、その次の2つを四段目に、最も重要でないと思われるもの1つを5段目に、というように、トランプのダイヤモンドのように配置する。

自由の具体例については、以下のものを使用した。

- ①職業選択の自由
- ②自分の意見を持ち、それを表現する自由
- ③知りたい情報を知ることができる自由
- ④趣味を持って活動する自由
- ⑤手に入れたお金を思うように使える自由
- ⑥居住地や活動拠点を選択し移動できる自由
- ⑦したくないことを拒否できる自由
- ⑧自分や家族のために仕事を休む自由
- ⑨人を愛することができる自由

正しいランキングを作成するのが目的ではなく、この配置を考えていく過程で、自由の概念と現実とを結びつけながら自由を考え自ら定義していくことが目的である。よって、ダイヤモンドランキングを完成させることが重要なのではなく、思考するプロセスが大切であることを理解させ、作業をさせる。

III. グループでのダイヤモンドランキングを作成, 理由を考えて記述させる… 25分

ランキングを完成させるよう議論を進めるが、完成自体が目的ではないので、グループでの議論が多数決などにならないように適宜アドバイスをする。また、議論が進むよう必要に応じて問いかけなどをする必要があるが、ランキングや定義に正解があるわけではないので、ランキングや定義に関する感想は控えるように注意する。あらかじめグループごとに議論の調整役(ファシリテーター)を設定しておくといよい。

IV. 代表グループに発表させる… 5分

ここでは、ただどのようなランキングになったかを説明するのではなく、議論の過程でどのような点が問題となったか、どこが最も調整が難しかったかといった点を中心に発表をさせる。

V. 振り返りを記述させる… 5分

ただの感想文ではなく、他者と意見がぶつかった点、議論の過程などを中心に記述させる。他者の価値観を受容しつつ、他者とともに生きていくために必要なことと

は何かといったことを記述させるとよい。

【実践例2 幸福とは何だろうか?】

①授業の主な目的

- 自分と周囲の人との考え方の違いや多様性を認識し、様々な考え方に対して受容ができるようになる。
- 自分が想定する幸福の定義など、根拠を持って自分の考えを主張できるようになる。
- 具体的な場面を想定しつつ、自分の人生を想定しながら議論を進められるようになる。
- 答えが1つに決まらないからこそ議論が重要なのだということに気づかせる。

②授業の展開 (2時間展開ならば、II~Vの時間を延長する)

I. 資料配付, 本時のテーマ (問い) 説明… 5分

ワークシートを配布し、ルール説明を行う。一般論やどんな人にも当てはまる結論を求めるのではなく、自分だったらどう考えるかを徹底させるように指示する。

II. 参考資料を読み, 自分にとって幸福とはどういうものかを考えて記述させる… 10分

参考資料は、自分にとっての幸福を考え、言葉にする手がかりとして用いるものなので、幸福論に関わるものなら何でもよい。筆者は、椎名林檎の「幸福論」という曲の歌詞を用いたことがある。アランの『幸福論』でももちろん構わない。幸福というものは生徒にとってはまだ茫洋としたものであるから、考える手がかりになる資料が必要である。また、これこそが幸福だ、というように明確な結論が出ない場合が想定されるので、無理に自分の意見をまとめようとさせる必要はない。様々な幸福のあり方を列記させるとよい。

III. 5人のグループをつくり, グループで幸福とは何かを議論させる… 20分

ここで注意しなければならないのは、グループ全員の幸福観を共有し、どれも大切だと確認し合うというだけにならないようにすることである。議論させることが肝要なので、様々な幸福のあり方を比べ、どれが最も幸福であるといえるか、なぜそういえるのかを議論させるようにした。あらかじめグループごとに議論の調整役(ファシリテーター)を設定しておくといよい。

IV. グループごとに発表させる… 10分

ここでは、グループの意見を概説するのではなく、議論の過程でどのような点が問題となったか、議論が一番盛り上がった部分はどこかといった点を中心に発表をさせる。

V. 振り返りを記述させる… 5分

ただの感想文ではなく、幸福を考え実現するために必

要なものは何かを記述させたり、他者の価値観を受容しつつ、他者とともに生きていくために必要なこととは何かといったことを記述させるとよい。また、他のグループの発表を聞いて気づいたことなどを書き加えてもよい。

以上2つの授業の目的に、フリートーク型授業の特徴が示されている。フリートークが優れている理由は、制約が少ないからこそ、自分と周囲の人との考え方の違いや多様性を認識しやすく、ゆえに、様々な考え方に対して受容ができるようになるための取り組みになりやすい点にあると考えられる。また、生徒に合わせてテーマを設定することで、自分の考えを根拠を持って主張する練習にもなりやすい。他者との対話が必要なのは、答えが簡単に1つに決まらないからこそなのだというところを、こうした授業を通して体感させたい。ここに対話型授業の究極の目的があると考えている。

<パターン2：レポート輪読・意見交換型>

あるテーマを設定し、先哲の思想を用いて自分の考えをまとめ、レポートを提出させる。そのレポートをグループで輪読し、意見交換をおこなうという形態の授業である。先哲の思想を理解し、それを実際に用いて考えること、そして相手の考えを熟読して内省につなげる静かな対話の特徴とする。

【実践例3 人間って何だろう？】

人間は真理に到達できるのか、人間は理性的に生きているのかなど、人間そのものを問う。設定するテーマによって、授業は次のように変化する。

<テーマ設定の例>

○思想家を自由に選択して記述しやすい例：哲学・倫理にとどまらない、学問の共通問題や究極的な問いに関わるものになる。

・人間は真理に到達できるのか？（絶対的真理は存在するのか？という問いと合わせてもよい）

・人間は理性的に生きているのか？

○特定の思想家の考えをてがかりに、賛否を論じることになる例：各思想家のエッセンスを取り上げて、賛否を問うこととなる。

・人間は自律的に生きることができるのか？

・無差別、無償の愛は可能なのか？

・世界は苦しみに満ちているのか？

・考える私は本当に実在するのか？

①授業の主な目的

○先哲の思想を用いて自分の考えをまとめ、他者にわか

りやすく説明することができるようになる。

○他者の様々な考えに触れ、自分の考えを振り返り、内省するようになる。

○答えが1つに決まらないからこそ対話が重要なのだということに気づかせる。

②授業の展開（1時間展開ならば、Ⅱを宿題として課す）

I. 資料配付、本時のテーマ（問い）説明…5分

レポート用紙を配布し、扱うテーマについて説明する。自分の考えに合う思想を自由に選択し、テーマに沿って自分の考えをまとめるよう指示する。生徒が、何かを手がかりにレポートを作成するのになれていない場合、具体的にどのようにレポートを作成すればよいか迷いそうな場合には、事前に簡単なモデルとなるレポートを用意し、配布してもよい。

Ⅱ. 教科書・資料集・授業内容を参照しつつ、人間とは何かについて、先哲の思想を用いて与えられた問いに答える（レポート作成）…45分

先哲の思想を利用して考えを説明する場合、以下のポイントをおさえたレポート作成を指示するとよい。また、このポイントがレポートの評価基準ともなる。

ポイント1. 先哲の思想を正確に用いてレポートを作成すること。

ポイント2. なぜその思想を選んだのか、理由を記述すること。

ポイント3. 具体的な事例を取り入れつつ説明すること。

ポイント4. ただし、右ページに示した「特定の思想家の考えをてがかりに、賛否を論じることになる例」を用いる場合、ポイント2は除外する。複数の思想家を取り入れてもよい。

Ⅲ. 5人のグループをつくり、メンバーが作成したレポートを輪読し、意見交換する…30分

あらかじめレポートの作成状況を把握し、特筆すべきレポートは全グループに配布したり、中身の濃淡についてグループ間で偏りが出ないように、グループ編成を考えたりといった工夫をするとよい。また、このテーマ設定は立場が2つに分かれるはずなので、両論が交わるようにグループ編成を考える必要がある。

Ⅳ. グループごとに、どのような意見が出たか発表させる…10分

立場の異なるレポートを読み合っ、お互いにどのようなことを考えたのか、どのような話が出たのかを中心に発表をさせる。

Ⅴ. グループでの意見交換、発表をふまえて、自分のレポートを読み返し、振り返りをおこなう…10分

内省・自己省察につながるよう、自分のレポートを読み返した上で振り返りを行うように指示するとよい。ま

た、必要に応じてレポートを書き直す取り組みを取り入れてもよいだろう。

積極的に発言することが苦手な生徒であっても、哲学的な対話は可能である。それを具体化する方法が、レポート輪読・意見交換型だといえる。テーマの設定如何で、フリートーク型にも移行できるし、ディベートへと転換することも可能となる。しかし、大切にしたいのはあくまでも先哲の思想に関する正確な知識と理解である。対話型授業を提唱するといっても、それを支える知識教授を軽視しているわけではない。

<パターン3 課題解決・提言型>

様々な社会問題について考える授業は数多あり、問題解決・提言をすすめるものも多い。しかし、なぜか社会問題について知識を深めるにとどまるもの、解決・提言が深まらないものが多くなってしまふ。その原因は、社会問題の原因を見出すことが極めて難しいのに、それに時間と労力を割かないこと、そして何が問題で何を解決すべきなのかを十分に検討しないことにあると思われる。解決策が簡単に見つかるのなら、それは既に見出され実行されているはずなのである。よって、先行事例研究を中心とした探求活動が有効となる。また、既に問題視されていることについて検討するだけでなく、新たな社会問題を発見すること、問題の本質を見出すことに着目すべきではないだろう。

社会問題の原因を見出すときに重要なのは、そこに倫理的な課題が存在するという意識であろう。社会事象が社会問題として認識されるのは、そこに倫理的課題があるからである。よって、課題の探求および解決策の探求については、先哲の思想を手がかりにすすめるのが有効であるといえる。

【実践例4 生態系をなぜ保護しなければならないのか そしてどのように保護していくべきか？】

①授業の主な目的

- 社会問題の原因を探り、何が問題でどう解決すべきなのかを考えられるようになる。
- 課題をどう解決すべきかを、先哲の思想を手がかりに考えられるようになる。
- 自分と周囲の人との考え方の違いや多様性を認識し、様々な考え方に対して受容ができるようになる。
- 根拠を持って自分の考えを主張できるようになる。
- 答えが1つに決まらないからこそ議論が重要なのだということに気づかせる。

②授業の展開

複数時間の確保が必要となる。配当時間は、授業で扱う資料をどれだけ教師が提示するかで大きく変化する。生態系保護の事例などを生徒自身で調べさせる取り組みなどを取り入れると、授業時間数が増える。

(ワークシートの例)

<生態系保護について提言をしよう！>

1. なぜ生態系を保護しなければならないのか
2. 注目したい生態系保護の取り組み例
3. この取り組みのここがすごい！
(この取り組みのここが大問題！)
4. なぜこのような取り組みがなされたのか
5. 絶滅が危惧されている身近な動植物
6. どのような方法で保護すべきか
7. なぜそのように考えるのか
8. この方法だと、別にどのような問題が発生するか
9. 問題に対してどのように対処すればよいか

I. 資料配付、本時のテーマ(問い)説明

授業の目的と手順を説明する。様々な先行事例・先行研究に触れつつも、自分だったらどう考えるかを徹底させるように指示する。

II. なぜ生態系保護が訴えられるようになったのか、なぜ生態系を保護しなければならないのか

倫理資料集など様々な資料を用いて、教師が教授形式で授業をする方法と、生徒自身が調べてまとめる方法とがある。生徒の状況、授業の進度、身につけさせたい力、といったものを考えつつ、選択するとよい。

III. 生態系保護の取り組みはどのように行われてきたのか、その取り組みはどのような考え方に基づいて実施されたか(先行事例から学ぶ、先行事例を分析する)

これもIIと同様、教師が事前にくいつかの事例を集めて提示する方法と、生徒自身が調べる方法とがある。

いきなり生態系をどのように保護するかを考えさせるのではなく、先行事例研究を行うのがよい。先行事例は、ただ保護の目的と方法を学ぶことができるだけでなく、実施に伴う問題もあわせて学ぶことができ、より多面的なものを見方につながるからである。

倫理の授業として大切にしたいのは、ただ事例を集めて参照するだけではなく、その背景にある価値観・考え方を分析させることである。たとえば、環境倫理には自然中心主義と人間中心主義という立場の違いがあるが、扱う事例がどちらの立場に即したものであるかを分析するということである。背景にある価値観・考え方の違いが、現実に表面化するとどのような違いが出てくるのかを学ぶことにもなる。

グループで探求活動をさせ、調べた結果をポスター発表のようなかたちでまとめさせるのもよい。

IV. どのように生態系を保護していくべきなのか、なぜそのような形の保護でないといけないのか、グループで議論し提言をおこなう

IIIで学んだことをふまえて、どのように生態系を保護していくべきか、具体的な方法を考えさせる。そして、なぜそうでなければならないのか、価値観・立場を明示して説明させる。グループ学習をおこなう。絶滅が危惧されている身近な動植物を調べ、どのような方法で保護するのがよいのかを議論させ、ポスター発表の形で提言をおこなう。次に、提言に向けてどのような点を考えなければならないかをワークシートの形で示す。このワークシートに沿って、ポスターを作成させる。

【実践例5 規制と自由の関係を考える ～大規模小売店舗法から考える～】

①授業の主な目的

- 社会問題の原因を探り、何が問題でどう解決すべきなのかを考えられるようになる。
- 課題をどう解決すべきかを、先哲の思想を手がかりに考えられるようになる。
- 自分と周囲の人との考え方の違いや多様性を認識し、様々な考え方に対して受容ができるようになる。
- 根拠を持って自分の考えを主張できるようになる。
- 答えが1つに決まらないからこそ議論が重要なのだということに気づかせる。

②授業の展開（2時間配当）

この実践例は、倫理と政治経済のコラボレーションを意図したものである。法律によって様々な規制がかけられているが、それは社会問題を事前に防ぐ意味がある。しかし、予防のために規制をかけるということは、自由を制限することになってしまう。ここでは、あくまでも倫理の授業なので、予防・規制と自由との関係をどう考えるか、規制を考えるために必要な観点は何かを中心に考えさせる。

(ワークシートの例)

法律による規制と自由の関係を考える ～大規模小売店舗法から考える～	
1. 大規模小売店舗法はなぜ制定され、なぜ廃止されたのか	
2. 大規模小売店舗法が存在していたときと、廃止後の違いは何か	
3. 経済活動の自由と規制の関係を考える際に利用できそうな思想にはどのようなものがあるか	
自分の考え：	関連する思想：
4. 経済活動の自由はどこまで実現させるべきか、なぜそう考えるのか	
5. 規制が正当であるための条件とは？	
条件1：	理由：
条件2：	理由：
6. 振り返り	

I. 資料配付、本時のテーマ（問い）説明…5分

授業の目的と手順を説明する。

II. 大規模小売店舗法はなぜ制定され、なぜ廃止されたのか…10分

政治経済や現代社会の資料集など様々な資料を用いて、教師が教授形式で授業をする方法と、生徒自身が調べてまとめる方法とがある。生徒の状況、授業の進度、身につけさせたい力、といったものを考えつつ、選択するとよい。

III. 大規模小売店舗法が存在していたときと、廃止後はどのような違いがあるか…20分

これもIIと同様、教師が事前にいくつかの事例を集めて提示しポイントを教授する方法と、生徒になじみのある町の移り変わりを調べさせるなど、生徒自身が地域研究を進める方法とがある。このプランでは、教師が教授することを想定している。グループで探求活動をさせ、調べた結果をポスター発表のようなかたちでまとめさせるのもよい。

IV. 自由と規制の関係を考える際に利用できそうな倫理思想を探す…15分

今後の議論を充実させるため、できるだけ多くの思想を取り出すように指示する。

V. 経済活動の自由はどこまで実現させるべきか、規制

が正当であるための条件とは何かを、グループで考える …30分

IVの作業をふまえて、規制と自由の関係を考えさせる。

「規制が正当であるための条件とは何か」という問いを設定することで、他の法律・規制の是非を考える際にも使える結論を導くことができる。このような視点が、社会を鋭くクリティカルに分析する力となる。

地域研究を重視するのならば、ここでさらに時間をとって、調べた地域についてどのような規制が必要なのか、既存の規制をどこまで緩和すべきかを考える取り組みも取り入れられる。

VI. 各グループの結論を発表させる…10分

グループの結論を簡潔に述べさせるだけではなく、結論につながった倫理思想はどういうものだったかもあわせて述べさせるとよい。

VII. 振り返り

他者の発表と自分の結論を比較し、共通点・相違点を整理させることで、背景となった価値観を確認させることができる。

4は課題発見から解決、そしてその後も含めて考えるところまで全てを授業化したもの、5は社会問題を考える前提そのものを探求することに特化したものである。

事例4・5とも、授業の目標は同じである。特に重視すべき目標は、「社会問題の原因を探り、何が問題でどう解決すべきなのかを考えられるようになる。」ということである。解決策ばかりを意識させると、結局は中身の薄いものにしかならないからである。

3. おわりに

紹介してきた授業全てに掲げた目標は、「自分と周囲の人との考え方の違いや多様性を認識し、様々な考え方に対して受容ができるようになる。」ということと、「答えが1つに決まらないからこそ議論が重要なのだということに気づかせる。」ということの2つである。

「よりよい社会を考える」という場合、「社会は○○であるべきである」という表現が用いられることになる。ここには現状分析と望ましい社会像という2つの要素がある。公民科の範疇で言えば、現状分析については政治・経済的な内容が大きく関わり、望ましい社会像については倫理的な内容が大きく関わることになる。よって、望ましい社会像を考えるということはどういうことかという視点で、授業の在り方を考える必要がある。望ましい社会像は当然、人によって異なる。しかし理屈では分

かっていても、価値観を交えて時にはぶつかり合い、妥協し合ったり説得し合ったりする経験を積み重ねれば、人によって価値観が違うのだと意識し、望ましい社会像をどう作っていったら良いのかを考えることは難しい。そして価値観が1つに定まることなどない。つまり答えは1つに決まるとは限らないのである。対話型授業が必要な理由、そして対話型授業が意味をなすためには、この2つの点にある。

今後も、対話型授業に限らず、それを支える授業も含めて授業開発・分析につとめていきたい。

【主要参考文献】

- ・国立教育政策研究所 平成24年度プロジェクト調査研究報告書「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」2013年
<http://www.nier.go.jp/kaihatu/pdf/Houkokusho-5.pdf>
- ・阪本昌成『憲法2 基本権クラシック 第四版』有信堂、2011年
- ・阪本昌成『リベラリズム／デモクラシー 第二版』有信堂、2004年
- ・柴山盛生ほか著『問題解決の進め方』放送大学教育振興会、2012年
- ・鈴木健ほか編『クリティカル・シンキングと教育 日本の教育を再構築する』世界思想社、2006年
- ・全国社会科教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブー変革と提案一』明治図書、2003年
- ・全国社会科教育学会編『社会認識教育の構造改革ーニュー・パースペクティブーにもとづく授業開発一』明治図書、2006年
- ・田口紘子「社会科における議論」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書、012年
- ・胤森裕暢『「価値観形成学習」による「倫理」カリキュラム改革』風間書房、2017年
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版、2010年
- ・D.ヒューム著 斎藤繁雄ほか訳『人間知性研究一付・人間本性論摘要』法政大学出版局、2011年
- ・E.B.ゼックスミスタほか著『クリティカルシンキング《入門編》』北大路書房、1996年
- ・P.F.ドラッカー著 上田惇生ほか訳『ポスト資本主義社会 21世紀の組織と人間はどう変わるか』ダイヤモンド社、1993年、pp.87-88より抜粋
- ・P.M.センゲ著 枝廣順子ほか訳『学習する組織 システム思考で未来を創造する』英治出版、2011年